



ぶどう膜炎

院長の専門分野はこの疾患になります。ぶどう膜炎は聞き慣れない言葉だと思いますが、**眼の炎症**によって生じる疾患の一つです。別名、虹彩炎や虹彩毛様体炎と言ったりもしますが、炎症によって、眼が赤くなったり、痛みが出たり、かすんで見えたりする病気で、症状の強いものもあれば、軽度なものもあります。多くの場合は放置しておく見えなくなっていく病気です。

ぶどう膜炎は眼科の中では多い病気ではありません。しかし、ぶどう膜炎になると病気の経過が長いため、長いお付き合いが必要になる疾患です。完治できるものもあれば、症状をコントロールしながら経過をみていかなければならないものがあります。院長は現在も日本大学板橋病院で専門外来を担当しており、しっかりとこの疾患に向き合った治療を提供できればと思います。

コロナウィルス

オリンピックの話題がすっかりなくなり、コロナウィルス一色になってしまいました。まだ、感染制御ができていませんが、そもそもこのウィルスは制御できるものなのか不明です。これからはこのコロナウィルスとずっとお付き合いしていくことになるでしょう。コロナウィルスはRNAウィルスであり、その特徴は変異をしやすいことです。人への感染を繰り返しながら、違ったタイプのウィルスが今後とも出てくる可能性があります。感染予防も大事ですが、感染したとしてもそれを打ち負かす免疫機能を備えるようにすることが大事ではないでしょうか。3密を避けることは感染を避ける予防策ですが、体内に入ったウィルスを退治する免疫をしっかりと鍛えておくことがより重要かもしれません。**ストレスを避け、楽しみ笑うこと、十分な睡眠、免疫活性を上げる食事**などそういったことを心掛けることもコロナ禍を乗りきるために必要です。